☺「福岡市　子どもと本の日」通信　Ｎｏ．237　　令和６年 12 月 23 日

『学校図書館』の役割

文部科学省は、学校図書館の整備充実を図るため、学校図書館の重要な事項についてその望ましい在り方を示す「学校図書館ガイドライン」を定めており、各教育委員会や学校においては、このガイドラインを参考にし、学校図書館の整備充実に努めているところです。

「学校図書館ガイドライン」では、学校図書館は、学校図書館法に規定されているように学校教育に欠くことのできない基礎的な施設として位置付けられ、図書館資料を収集・整理・保存し、児童・生徒及び教職員に提供すると共に、児童生徒の健全な教養を育成することを目的としています。

また、目的達成のため学校図書館には、***３つのセンター機能***を求めています。

読書センター：　想像力を培い、学習への興味関心、心豊かな人間性、教養、想像力等を育む読書活動や読書指導を行う機能

学習センター：　自主的自発的、協同的な学びを支援したり、授業の内容を豊かにし、学習の理解を深めたりする機能

情報センター：　児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報・収集・選択・活用能力を育成したりする機能

そのため、学校長には、図書館長としてのリーダーシップの下、学校種、規模、児童生徒や地域の特性などを踏まえ、学校図書館全体計画を策定するとともに、計画的・組織的に学校図書館を運営することが望まれています。さらに運営に関わる主な教職員には、**校長等の管理職、司書教諭や一般の教員（教諭等）、学校司書等がおり、学校図書館がその機能を十分に発揮できるように、各自がそれぞれの立場で求められている役割を果たした上で、お互いに連携・活用し、組織的に取り組むように努める**ことが望ましいとあります。

３つのセンター機能を果たすためには、各学校において、しっかりとした計画を策定し、全職員が、目的と役割を意識して、学校図書館の運営と児童生徒の教育にあたっていかなければなりません。

子どもの読書活動推進のために、学校図書館の機能化を図りたいものです。

‹令和５年度に開校した西都北小学校の学校図書館の様子›

おすすめの本を紹介するコーナー

靴を脱いで上がるスペースもあります

子ども達が、本を探しやすいように分類法や分類別書架の場所を掲示しています

書架には、掲示に対応した色の表示や見出しを設置しています

今年も、残り８日となりました。来年は巳年（みどし・へびどし）です。脱皮をする蛇のイメージから巳年は「復活と再生」を意味しているそうです。植物に種子ができはじめる時期、次の生命が誕生する時期など、新しいことが始まる年になると言われています。また、「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ」年とも言われるようです。令和７年も、皆様の飛躍の年となることを祈念しております。

＜須藤＞

1月　のこと　と　人

1.9　とんちの日

「とんち」で有名な「一休さん」にちなみ、「いっ(1)きゅう(9)」と読む語呂合わせからきている。一休さんは、室町時代の臨済宗の僧。「屏風の虎退治」や「このはし渡るべからず」などが有名で、絵本や紙芝居の題材としてよく用いられる。とんちとは、その場に応じて即座にでる知恵、機知を意味する言葉である。

1.13　成人の日

国民の祝日の一つである。ハッピーマンデー制度により、1月の第 2 月曜日があてられている。なお、1999 年までは 1 月 15 日だった。2022 年 4 月 1 日から成人対象者が 18 歳に変更されたが、多くの自治体では 20 歳を対象とした「はたちの集い」を開催している。

ウィーダ　(1839.1.1～1908.1.25)

イギリス生まれ。ウィーダはペンネームである。日本では 1872 年発表の『フランダースの犬』で知られる。1870 年ごろイタリアのフィレンツェに移住し、動物愛護協会設立に力を尽くし、犬好きで、晩年は多数の犬と暮らしていた。

村上　春樹　(1949.1.12～　)

京都府生まれ。日本の小説家・翻訳家。1979 年、『風の歌を聴け』で群像新人文学賞を受賞してデビューする。1987 年発表の『ノルウェイの森』は 2009 年時点で上下巻 1000 万部を売るベストセラーとなり、国民的な作家となっている。

小松　左京　(1931.1.28～2011.7.26)

大阪府生まれ。星新一・筒井康隆と共に「SF 御三家」と呼ばれ、日本 SF 界を代表する SF 作家であり、戦後の日本を代表する小説家でもあった。代表作として、『復活の日』『日本沈没』『さよならジュピター』などが有名である。

神沢　利子　(1924.1.29～　)

福岡県生まれ。日本の児童文学作家。1965 年以降、本格的な創作活動に入り、数多くの児童文学作品を刊行している。代表作として『いたずらラッコのロッコ』『くまの子ウーフ』『銀のほのおの国』『そりになったブナの木』などが有名である

図書館員のひみつの本棚　第224 回

　今月は、方言が楽しい昔話絵本を紹介します。

『なんげえはなしっこしかへがな』
　北 彰介／文, 太田 大八／絵　BL 出版　2018 年　￥1600(税別)

＜お勧め年齢＞
乳幼児★☆☆　小低学年★★★　小中学年★★★　小高学年★★★　中学生★★☆
高校★★☆　一般★★★
(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>
　「なんげえはなしっこしかへがな(＝長い話をしてやろうかな)」で始まる、津軽で語られてきた昔話の絵本です。ほら話のようでもある楽しい昔話が７話入っています。
　この昔話、もともとは、延々と同じことを繰り返して子どもを飽きさせるのがねらいだったとか。あとがきを読むと、むかしの情景が浮かんできて、より一層ほのぼのとした気持ちでお話に向き合えます。

<子どもに手渡す時のポイント>
　文字で読むには少し難しく感じられるかもしれないので、ぜひ読んで聞かせてあげてください。なじみのない方言でも、耳で聞くと、不思議と意味はすっと入ってきます。あとがきにもあるように津軽弁のまねをする必要はないと思いますが、読み慣れるのに少し練習は必要かもしれません。独特のリズム感や繰り返しを楽しみながら挑戦してみてください。
　１つ１つの話はとても短く、くり、へび、せみ、鬼など季節やテーマに合わせてちょっと読んであげるのにも適していると思います。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみて下さい。